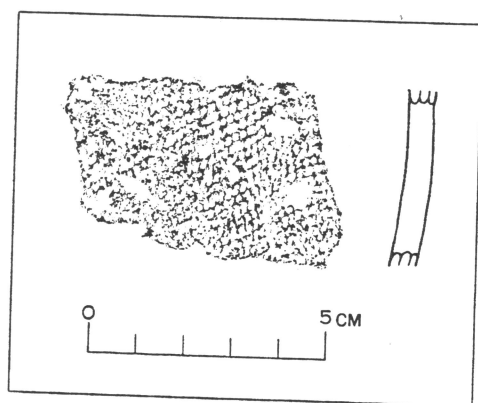


靱痕のある土器



蔵王町円田大橋遺跡において、中橋彰吾氏が採集されたものである。甕の体部破片と考えられ、外面にはLR原体の単節縄文が施されている。焼成は良好で、色調は、外面がにぶい橙色内面がにぶい赤褐色である。靱痕は外面にみとめられる。大きさは、長さが6.5mm、幅が3.1mmである。大橋遺跡は、塩釜式期の竪穴住居跡が発見されたことで著名である。弥生土器はこれまで、主に円田式と天王山式が出土している。本資料をお貸しいただき、掲載を快諾された中橋氏に厚くお礼申し上げる。なお、表紙の拡大写真と文中の靱痕の計測値は須藤隆氏の手によるものである。(太田昭夫)



本誌掲載遺跡の位置図